

第38回建設業剣道大会

第38回建設業剣道大会（日刊建設工業新聞社後援）が5日、東京都台東区の東京芸術大学体育館で行われた。団体戦は20社31チーム、女子個人戦は12人が出場し、いずれも過去最多。団体戦は、予選リーグ、決勝トーナメントを勝ち上がった技術者派遣のオールエフテクニカ（東京都渋谷区、宮原領社長）が初優勝。女子個人戦は、伊田テクノ（清水建設技術研究所）の高木建治氏が初優勝。女子個人戦は、伊田テクノの志藤綾子選手が大会史上3人目の3連覇を成し遂げた。

今回の大会には、10代から60代までの幅広い年齢層の「ゼネコン剣士」が出場。外国籍の選手もいた。持ち回り幹事を務めた清水建設とシンドウ工業（大阪市、佐藤昭彦社長）を代表して大会委員長の高木建治氏（清水建設技術研究所）は開会式で、「若手、ベテラン、女性、外国人と



東京芸大体育館で熱戦が繰り広げられた



過去最多の選手が集まった大会の開会式

R F テクニカが団体戦初優勝

多様な人材が求められる『ダイバーシティー』をテーマとした。日頃の成果を遺憾なく発揮してほしい」とあいさつした。

来賓の高橋治光日刊建設工業新聞社常務は、「働き方改革が課題となっている」と心身のバランスが取れていないとさまざまな問題が起きるよつた。日頃、心・技・体を鍛えてい

「若手、ベテラン、女性、外国人と」

「多様な人材が求められる『ダイバーシティー』をテーマとした。日頃の成果を遺憾なく発揮してほしい」とあいさつした。

来賓の高橋治光日刊建設工業新聞社常務は、「働き方改革が課題となっている」と心身のバランスが取れていないとさまざまな問題が起きるよつた。日頃、心・技・体を鍛えてい

「多様な人材が求められる『ダイバーシティー』をテーマとした。日頃の成果を遺憾なく発揮してほしい」とあいさつした。

来賓の高橋治光日刊建設工業新聞社常務は、「働き方改革が課題となっている」と心身のバランスが取れていないとさまざまな問題が起きるよつた。日頃、心・技・体を鍛えてい



団体戦を制したオールエフテクニカ



女子個人戦の入賞者（左から橋本、石川、志藤、松本の各選手）

女子個人、志藤選手（伊田テクノ）3連覇

きた。来年もこの場所に帰ってこられるようチャレンジしていく」と喜びを語った。大将を務めた上戸信也選手は「一人一人が次につなぐチームワークに徹した」と述べた。3位は清水建設Aと同C。

女子個人戦は、トーナメントを勝ち上がった志藤選手がNI PPOの石川史子選手を延長戦の末に下して優勝。来年は史上初の4連覇が懸かるが、「勝ち負けよりも自分の剣道に徹することを重視したい」との姿勢で挑む。3位はNI PPOの橋本紋奈選手と伊田テクノの松本実姫選手。

閉会式の最後に中田瑋士審判長（関東管区警察学校名誉師範、江戸川区剣道連盟副会長）は、「皆さんは、全剣連推奨の『生涯剣道』を具現している。厳しい仕事の合間を縫った稽古を通じ、末永くご精進を」と述べ、大会を締めくくった。

大会開催に当たり、「建設業剣道大会」と記した横断幕が新調され、日刊建設工業新聞社が寄贈させていただきました。